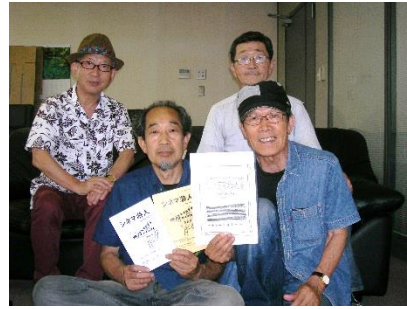


シネマ游人編集部

中村藤生 前段左  
林 久登 前段右  
堀川慶治 後段右  
森 次男 後段左



 シネマの宝箱  映画同人雑誌「シネマ游人」

映画同人雑誌「シネマ游人」が三重県四日市市で生まれた。「準備号」「創刊号」「第二号」だが、「映画だけの」同人誌は、近年では珍しいだろう。メジャーな映画をシネコンで見る時代である。アート系やこだわり派は、地方となると、意見交換の場などほとんどない。

そんな中で、マイナーな、あるいはクラシック派の有志が、自分たちの思いを吐露する場を、身銭を切って作った。「第二号」の奥付をみると、代表は中村藤生で、堀川慶治、森次男、林久登が同人である。映画関係を生業とするのではなく、まずは半ばマニアックな老映画愛好家である。

中村は、元々は建築士。若尾文子の大ファンで、増村保造に関しては一家言あり。堀川は、最近の世の流れを憂う

反骨精神の持ち主で、義兄は脚本家の長田紀生。森は、4人の中で最も正統派の映画好き。マジックをやればプロの腕前でファンも多い。林は、ボルノ担当を自負し、いかに軟らかく、品を落とさないかに腐心。

刊行の辞に「映画に関することであれば何でも結構です。多くの人たちのご意見や投稿を歓迎します」とある。これまでの3冊で24人が執筆していて、名古屋市や神奈川県鎌倉市在住者からのものもある。

第二号の20人による「私が選んだ外国映画歴代ベスト3」なども面白いが、創刊号の安井廣之「洋画シナリオ紀行」が秀逸である。「四十年余り昔にフランスに留学していたこともあって、フランス映画は随分観た」筆者の、フラン

異色の映画誌

毎 日 新 聞

9月3日毎日新聞東海版に小誌「シネマ游人」紹介される

シネマ<sup>ゆうと</sup>游人 第2号

発行：2016年9月25日

発行者：シネマ游人代表 中村藤生

〒510-8014 四日市市富田 2-15-15

TEL・FAX 059-365-9578

E-mail cinema.yuuto@gmail.com

口座：百五銀行富田駅前支店 普通 395911

シネマ游人 yokkaichi

編集責任者：林 久登

頒価：300円

印刷所：(有)ヤマダスピード製版